

in サミット

今、高校生が考えるデジタルシティズンシップとは
ーデジタルウェルビーイングな社会を目指してー

開催報告書

2023年11月3日(祝)13:00ー17:00

【会場】：情報セキュリティ大学院大学東京オフィス

主催

高校生ICTカンファレンス実行委員会

(構成団体)

一般社団法人安心ネットづくり促進協議会

大阪私学教育情報化研究会

一般財団法人草の根サイバーセキュリティ推進協議会

共催

こども家庭庁、警察庁、消費者庁、デジタル庁、総務省、文部科学省、経済産業省

2023年12月5日

目 次

1. 開催概要.....	2
2. 高校生 ICT Conference 2023 地域開催.....	4
3. 高校生 ICT Conference 2023in サミット 開催概要.....	4
4. 主担当.....	11
5. 高校生 ICT Conference 最終報告会.....	11
6. 高校生 ICT Conference の成果物と終了後の対応.....	11

1. 開催概要

名称：	高校生 ICT Conference 2023 テーマ： 今、高校生が考えるデジタルシティズンシップとは ーデジタルウェルビーイングな社会を目指してー
主催：	高校生 ICTカンファレンス実行委員会 (構成団体) ● 一般社団法人安心ネットづくり促進協議会 ● 大阪私学教育情報化研究会 ● 一般財団法人草の根サイバーセキュリティ推進協議会
共催：	こども家庭庁、警察庁、消費者庁、デジタル庁、総務省、文部科学省、経済産業省
後援：	一般社団法人全国高等学校 PTA 連合会、全国高等学校情報教育研究会、一般社団法人電気通信事業者協会、一般社団法人全国携帯電話販売代理店協会、一般社団法人日本スマートフォンセキュリティ協会、特定非営利活動法人コンピュータエンターテインメントレーティング機構、独立行政法人情報処理推進機構、一般財団法人マルチメディア振興センター、一般社団法人インターネットコンテンツ審査監視機構
協賛：	グーグル合同会社、株式会社ラック、日本マイクロソフト株式会社、株式会社メディア開発総研、株式会社ディー・エヌ・エー、Bytedance 株式会社、グリー株式会社、アルプス システム インテグレーション株式会社、エースチャイルド株式会社、一般社団法人全国携帯電話販売代理店協会
協力：	株式会社内田洋行、株式会社 NTT ドコモ、KDDI 株式会社、ソフトバンク株式会社、デジタルアーツ株式会社、一般社団法人インターネットコンテンツ審査監視機構、ストップイットジャパン株式会社
開催目的：	<p>高校生 ICT Conference は、2011 年度に「ICT プロジェクト 高校生熟議 in 大阪～ケータイ・インターネットの在り方&活用法～」として大阪でスタートしました。2012 年度は、東京開催を加え計 17 校 79 人の高校生が参加、その後順次規模を拡大し、2020 年度には、全国 15 拠点にて開催し、計 86 校 360 人の高校生が参加しました。</p> <p>高校生 ICT Conference の開催目的には、二つの側面があります。その一つは、教育的側面であり、初対面の人と話し合うという経験の中で、段階的に「考え、まとめる、聞く、話す、見せる、伝える」などの技術を修練することです。第二に社会的に注目を浴びている携帯電話やインターネットをテーマとすることで、大人になる準備段階として、携帯電話やインターネットを安心して安全に使うために、高校生として情報モラルについて自ら深く考え、実践することで、将来のより良いインターネット利用環境の構築の一助とすることです。</p> <p>新型コロナウイルスで揺れ動いた社会は、ようやく各種の行動制限はなくなりましたが、未だ感染リスクは存在するため、本来密であるはずの高校生の生活環境においても、人と人が直に接するリスクを未だ抱えている状況です。</p> <p>一方、高校生の ICT 利用環境に目を向けると、スマホに加え、一人一台学習端末の導入（いわゆる GIGA スクール構想）により、機能のすぐれたタブレットやパソ</p>

	<p>コンの個人専有が普及しました。さらに自然言語による生成 AI 技術等の目覚ましい進歩と実用化に向けた取組により、多様なシーンで AI 技術が利用されるようになりました。こうした社会環境の変化や情報技術の進歩を背景としたデジタル社会を迎え、今後、益々利用者自身の情報リテラシーや情報モラルが求められるようになってきています。</p> <p>ICT の健全な利用により利用者のデジタルウェルビーイングな状況を維持する社会環境の構築に向けた取り組みは我が国が目指しているところであり、それを支えるのが利用者の情報技術を利用する上での行動規範であるデジタルシティズンシップです。これから迎えるデジタル社会においてその中核をなすであろう現在の高校生が、現在そして将来果たすべき役割とは何か。多様な ICT 機器やサービス、新たに開発される技術の活用において、ICT 利用の最先端を走る高校生が、自身の役割について、斬新な指針とその実現方法を議論し、提言する。</p> <p>※平成 21 年 4 月から施行された「青少年インターネット環境整備法」に基づき、青少年が安心・安全にインターネットを利用するための環境整備が始まりました。民間の自主的・主体的取組が鋭意進められていると共に、行政府に於いても施行状況の検討が進められています。</p> <p>更に、国は 2021 年 9 月 1 日にデジタル庁を新設し、2022 年 6 月 7 日に閣議決定された「デジタル社会の実現に向けた重点計画」において”誰一人取り残されない、人に優しいデジタル化”を目指しています。高校生を取り巻く環境では、2022 年度より「情報」の授業が必修化されました。また、2025 年度からは共通テストで「情報」を加えた 6 教科 8 科目を課すことが決まっています。このように、ICT の利活用はわが国発展のための基盤と位置付けられており、これからのデジタル社会で中核を担う高校生による熱い議論を目指します。</p>
開催の概要：	<p>【各開催地での内容】※日程は、2. 地域開催の欄をご覧ください。</p> <p>(1) 挨拶 (2) 講演 (3) アイスブレイク (4) 熟議 (5) グループ発表 (6) 講評 (7) サミット参加者発表</p> <p>【東京サミット】</p> <p>(1) 挨拶 (2) アイスブレイク (3) 提言のための熟議 (4) 提言発表 (5) 講評 (6) 最終報告会参加者発表</p> <p>【最終報告会】</p> <p>(1) 各府省庁への提言発表 (プレゼン) (2) 質疑応答・意見交換</p>
各開催地 募集人員等：	<p>募集参加生徒 30 名 (各開催地により変動あり) 募集見学者各回 30 名 (各開催地により変動あり)</p>
参加参観方法：	参加費・参観無料 [要事前登録]
高校生 ICT Conference	<p>【委員長】</p> <ul style="list-style-type: none"> 米田謙三 (大阪私学教育情報化研究会 副会長)

実行委員会：	<p>【コアメンバー】</p> <ul style="list-style-type: none"> 石田幸枝（公益社団法人全国消費生活相談員協会 IT 研究会理事・消費者団体訴訟室長） 植田 威（特定非営利活動法人 NPO 情報セキュリティフォーラム理事） 小城 英子（聖心女子大学） 他、関係者団体、事業者等 <p>【事務局】 一般社団法人安心ネットづくり促進協議会 〒104-0041 東京都中央区新富二丁目 4 番 5 号 ニュー新富ビル 4 階 TEL: 03-6280-4901</p>
--------	--

2. 高校生 ICT Conference 2023 地域開催

高校生 ICT Conference 地域開催では参加した高校生がテーマに沿った議論を実施し、サミットへ行く代表者を選抜します。

開催地	開催日時	会場
札幌	9月16日	u-cala
札幌	10月1日	株式会社クレスコ 札幌事業所
帯広	10月1日	とかちプラザ
茨城	8月23日	茨城県立石岡第一高等学校
東京	10月1日	情報セキュリティ大学院大学東京オフィス
新潟	8月17日	NCC 新潟コンピュータ専門学校
静岡	9月18日	専門学校 静岡電子情報カレッジ
愛知	9月24日	大同大学大同高等学校
長野	10月14日	オンライン
石川	9月18日	金沢勤労者プラザ
大阪	9月17日	私学会館
兵庫	9月9日	兵庫県立姫路東高等学校
高知	9月10日	高知県立伊野商業高等学校
福岡	9月2日	福岡県千代合同庁舎
大分	7月29日	ホルトホール大分会議室
長崎	8月19日	オンライン
全国オンライン1	8月7日	オンライン
全国オンライン2	10月8日	オンライン

3. 高校生 ICT Conference 2023in サミット 開催概要

概要	<p>高校生、教員、企業関係者など72名（YouTube 参観除く）の参加者を得て、今、高校生が考えるデジタルシティズンシップとは ―デジタルウェルビーイングな社会を目指して― をテーマに高校生がグループに分かれて活発な議論と発表を行いました。</p>
----	--

【熟議】

司会進行・主旨説明 実行委員長 米田 謙三 様

高校生 ICT Conference の概要及び大まかな流れ、本日のポイントや主旨などを説明しました。サミットの開催にあたり参加者並びに挨拶に参集いただいた共催省庁の皆様へ感謝の言葉がありました。

開会の挨拶

総務省 情報流通行政局 情報流通振興課長 大澤 健 様

総務省では情報通信・地方自治・行政管理を所管しており、特に情報通信分野では、インターネットやスマートフォンの利用等に係る政策の企画・立案を担当している。その中でも情報流通振興課では、高齢者向けのデジタル機器に関する講習会の実施や、フェイクニュース等に対応するリテラシー向上に関する取組、青少年の安心・安全なインターネット利用の環境整備に関する取組を行っている。本日はこうした取組とも関連する「デジタル・シティズンシップ」をテーマに議論いただくが、各地域におけるこれまでの議論や、本日参集いただいた皆さん一人一人のこれまでの経験を活かして有意義な議論を進めてほしいとご挨拶をいただきました。

子ども家庭庁 成育局 安全対策課長 鈴木 達也 様

平成 21 年に制定された青少年インターネット環境整備法やこれに基づいた基本計画は、危険が潜むインターネットからフィルタリングにより子どもを守ることが基本になっているが、インターネットの活用能力を高めることも定められている。これからは、危険だから使わせないというよりも、こどものうちから、正しく、賢く使うデジタルシティズンシップという方向になっていること、皆さんはこどもの時からインターネットを使いこなしている世代であり、今日は活発に議論を進めてほしいとご挨拶をいただきました。

消費者庁 政策課長 尾原 知明 様

インターネットの発達で、ワンクリックでいろいろなものが買える便利な時代になった。半面新しいサービスが始まるとリスクも生じる。全国の消費生活センターには最近 10 代ではオンラインゲームや美容、儲け話に関するトラブル、20 代では美容、儲け話に関するトラブルが数多く相談されている。これを防止するには皆さん自らがリテラシーを高めることが大切になる。今日のような議論を通じてより良い社会を作っていくことを期待しているとご挨拶いただきました。

文部科学省 総合教育政策局

男女共同参画共生社会学習・安全課 安全教育推進室長 岩倉 禎尚 様

発展していく ICT 技術を健全に使うことについて、こうした機会を通じて積極的に議論し、全国に発信して欲しいとご挨拶をいただきました。

警察庁 生活安全局 人身安全・少年課

少年保護対策室長 兼 児童性被害対策官 助川 隆 様

警察庁では犯罪の取り締まりを行うが、SNS関係では事業者と連携して犯罪を未然に防ぐ施策も行っている。例えば同じスマホであっても入っているアプリも使い方も違いがある。そうすると、高校生の皆さんに見えているものが大人には見えてなく、逆もあるはずである。そうしたことを意識し、この機会に周りの大人も巻き込んで議論をして欲しいとご挨拶をいただきました。

経済産業省 商務情報政策局 情報経済課 企画官 橘 均憲 様

生成 AI の発展により、私たちの社会は大きな変化に直面している。デジタルシティズンシップとデジタルウェルビーイングは、この変化に対応するために重要な考え。前者はデジタル世界で倫理的に行動することであり、後者はデジタルメディアの利用が自分の幸せや健康に良い影響を与えるように管理すること。最近、若者を中心に、自分のリアルな姿を加工せずに共有するアプリが人気。自己肯定感を高める効果もあるが、個人情報の漏洩などのリスクも伴う。自分の安全や健康を守るために、適切な使い方を心がける必要がある。また、高齢者の ICT 利用が増えるにつれて、詐欺などの被害も増えている。若い世代が高齢者をサポートすることも大切。今日の議論を地域に広め、みんなで考えていって欲しいとご挨拶をいただきました。

デジタル庁 国民向けサービスグループ 企画官 久芳 全晴 様

「デジタル技術が生活に溶け込んでまだ数十年。皆さんのような若者は便利で有用なものと考えている反面、世代によっては不便なもの・危険なものという印象を持つ方が多い。このようにデジタル技術の利活用の度合いに違いがある中、デジタル庁は「誰一人取り残されない、人に優しいデジタル化を」目指している。

より良い関係性・社会を作るためには、何かしらのルールは必要になるが、安全が関わる分野は、不安が先行し、規制が厳しくしたいという声が強くなる傾向がある。しかし、デジタル技術を自然に使う若者にとっては、過度な規制となる可能性がある。

そうならないように大切なのは、社会全体のリテラシーを上がっていくこと、そして、それぞれがどのようなルールが望ましいか考え、提案していくことであり、今日の熟議では是非便利さと安全のバランスを考えて欲しい。これから 10 年 20 年先の社会を見据えた、世代間の違いを超えた意見を期待している。」とご挨拶いただきました。

第一部 各開催地域代表生徒の自己紹介、地域の取り組みの簡単な紹介 (各 3 分)

第二部 熟議

今、高校生が考えるデジタルシティズンシップとは
—デジタルウェルビーイングな社会を目指して—

4つのグループでそれぞれ分かれ最初はファシリテーターの進行のもと、高校生熟議を開始しました。まずは「多様な ICT 機器の活用と役割」から目的（機能）と利用シーン（機会）から見た ICT 機器の活用、「安心安全な活用とはなにか」から個人情報、防災、防犯、生成 AI などについてブレインストーミングを実施し、今回のテーマについて特に高校生が考える「社会的活用とは（こうすれば快適な社会になる）」「高校生が社会に対して果たせる役割とはなにか」をメインに高校生自身が考える自らの役割、高校生だからこそ果たせる役割（行動、発信、影響力）ということを中心に Google スライドを活用しながら意見を整理分類しまとめて行きました。具体的な使い方については、テーマにしぼった班や少し大きなテーマで取り組んだ班などいろいろとありました。熟議の中で分からない事は、省庁の方や先生方にもサポーターとして入っていただき、すばやく教えてくださいました。また今回もファシリテーターは OBOG の大学生・社会人が中心となってくれました。事前にオンラインでのフォームやまとめ方を打ち合わせして、滞りなくまとめることができました。（ファシリテーター研修を今年もほぼ隔週土曜日 3 か月間にわたって実施しました。

今回の東京サミットの熟議の大切にしたいポイント

みなさんが考える ICT の快適な社会的活用と効果はなんですか

- 1, ICT を活用するとこんなに便利になる
例) 入試説明会、入社面接、行政手続、ネット売買、金融手続
- 2, 目的に合った活用で広がる世界
例) 学習塾、情報収集（行政情報、地域情報、趣味情報）
- 3, ICT でつながる外部の世界
例) 趣味のブログ、動画配信、オンラインセミナー
- 4, 不利な条件を乗り越える
例) 時間、距離、移動手段
- 5, ICT の新しい活用法
例) 効率的学習、文章作成、翻訳、会話型検索

高校生が社会に果たせる役割とは何か ー行動、発信、影響力ー

- 1, ICT の活用を届けたい世代は？
幼児、小中学生、大人、高齢者
- 2, ICT 活用の先頭を走る高校生から見た活用法
生活の一部としての ICT
- 3, どうしたら全世代が使えるようになるのか
機能、ソフト、サポート、アシスト
- 4, 新しい AI との付き合い方
活用方法を創造する
- 5, 今高校生が果たせる役割
家庭で、社会で

第三部：グループ発表

各グループともプレゼンテーションソフト (Google スライド) を活用して4分の発表を行いました。(詳細は別紙「グループ発表資料」をご参照ください)

リアル熟議・発表でどのグループもその分内容が充実していて本当に提言としてよくまとまった発表となりました。劇を入れたグループやすぐにできる提言もたくさんありました。

講評で米田実行委員長 がまとめた各班のポイント 参考 発表順

【4班】 My Candy Plan ~世代をくるりんちょ~

様々な世代に高校生が情報を発信

ICTに慣れているため自分たちで情報を発信できる

提言

小中生 : ゲームを使って一緒に学ぶ

→リテラシーに関するゲームの紹介・体験

上の世代: デジタルを受け入れてもらう

→小中学生に向けた取り組みの様子を親世代に

行政 : 過疎地域や自分たちが できないところを補ってもらう

→人を呼び込みサイクルを生み出す

高校生があらゆる世代を巻き込む 学校用ポータルアプリの制作

【3班】 「教育」 現在の環境から分かる「教育」への問題点と解決策

変化の激しいICT技術社会の 最前線に立つ高校生

教育「される」側と「する」側

高校生は大人から教育 →リテラシー・ICT教育

小中・高齢者に教育→スマホ使い方・自分の活用

行政への提言 より自由な探求・調査 グループワーク・最新の環境対応

BYOD 端末の改善 →スペック・Wi-Fi・一括管理

ICT教育の改善・追加→GIGA スクール構想改善

高校生へ ICTの知識を率先して広める

文化に「従う」 → 文化を「つくる」 側へ

【2班】 小中学生のデジタル教育 TARGET: 義務教育

①デジタル機器に関する開放性を高める

学校でのスマートフォン等の利用を認める

②小中学生に実践的なICTの使い方をカリキュラム

日常生活でICT機器を使う年齢が下がっている

デジタルシティズンシップとは →適応力

・多角的な視点で客観的に判断できる力

→より実社会に近い環境で実践して学ぶ

デジタルウェルビーイングな社会に

【1班】 快適に使うためには土台の充実！

高速ネットワークなどの インフラ整備 Well-being！

ネット環境もインフラの時代に “だれひとり” 取り残さない”

SNS アプリ「ウェルシブ」 ←ICT の役割

- ①現代版避難訓練 加害者と被害者両方の立場でデジタル体験
- ②地域の魅力発信 若者の U・J・I ターン！ 高齢者への ICT 教育の足がかり
- ③コミュニティ設定 より良い社会に（家族/学校/会社/町内会デジタル化）
- ④モチベーション・マネジメント

生成 AI を用いて好きな人（推しなど） モチベーションのマネージャーに
ライフワークバランス（学習/生活習慣/スマホの使い過ぎ）

→これらをマネジメント

「運営方法」 高校生主体 安全安心のために マイナンバーとの紐づけ

→ 一人一アカウントを基本とし

なりすまし・誹謗中傷を許さない仕組み 海外等へ

講評：大阪私学教育情報化研究会 副会長 米田謙三 様

今回も大学生・社会人のファシリテーターのもと本当にいろいろな意見がここまで出てきて大変良かったと思います。今年は愛知の復活、兵庫からの参加校も増えました。デジタル庁様の共催も増えました。来年もさらに盛り上げて行ってほしいと思います。また 今回話し合った事を、学校に戻っても話しあってほしい。次年度以降もいろいろと協力してほしいと思い講評をいただきました。

その後、参加生徒の互選により、12月1日に開催される最終報告会に行くグループでの代表者が選出され、全体会で発表されました。

- ・長野県松本県ヶ丘高等学校
- ・長崎県立壱岐高等学校

最後に全体写真を撮影して、今年もリアル開催の良さを感じました。

参加校：

- 市立札幌旭丘高等学校
- 北海道帯広柏葉高等学校
- 江戸川学園取手高等学校
- 新潟県立長岡大手高等学校
- 石川県立金沢錦丘高等学校
- 長野県松本県ヶ丘高等学校
- 静岡県立島田商業高等学校
- 愛知みずほ大学瑞穂高等学校
- 関西創価高等学校
- 兵庫県立姫路東高等学校
- 高知県立佐川高等学校
- 福岡県立筑前高等学校

	長崎県立壱岐高等学校 大分県立大分舞鶴高等学校 福井県立敦賀高等学校 早稲田摂陵高等学校（順不同）
日 時：	2023年11月3日（祝）13：00－17：00
場 所：	情報セキュリティ大学院大学東京オフィス
参加人数：	熟議参加生徒 16人 見学者・関係者 56人（省庁関係者、教員・教育関係者・その他） 合計： 72人
熟議グループ：	熟議参加者が高校生のため匿名とさせていただきます。（敬称略） 【グループ名：1】4名 市立札幌旭丘高等学校 静岡県立島田商業高等学校 愛知みずほ大学瑞穂高等学校 早稲田摂陵高等学校 〔ファシリテーター〕 金子 真志、浅野 充晏 【グループ名：2】4名 長野県松本県ヶ丘高等学校 関西創価高等学校 大分県立大分舞鶴高等学校 福井県立敦賀高等学校 〔ファシリテーター〕 橋田 喜乃 【グループ名：3】4名 江戸川学園取手高等学校 新潟県立長岡大手高等学校 兵庫県立姫路東高等学校 長崎県立壱岐高等学校 〔ファシリテーター〕 花岡 吟音 【グループ名：4】4名 北海道帯広柏葉高等学校 石川県立金沢錦丘高等学校 高知県立佐川高等学校 福岡県立筑前高等学校 〔ファシリテーター〕

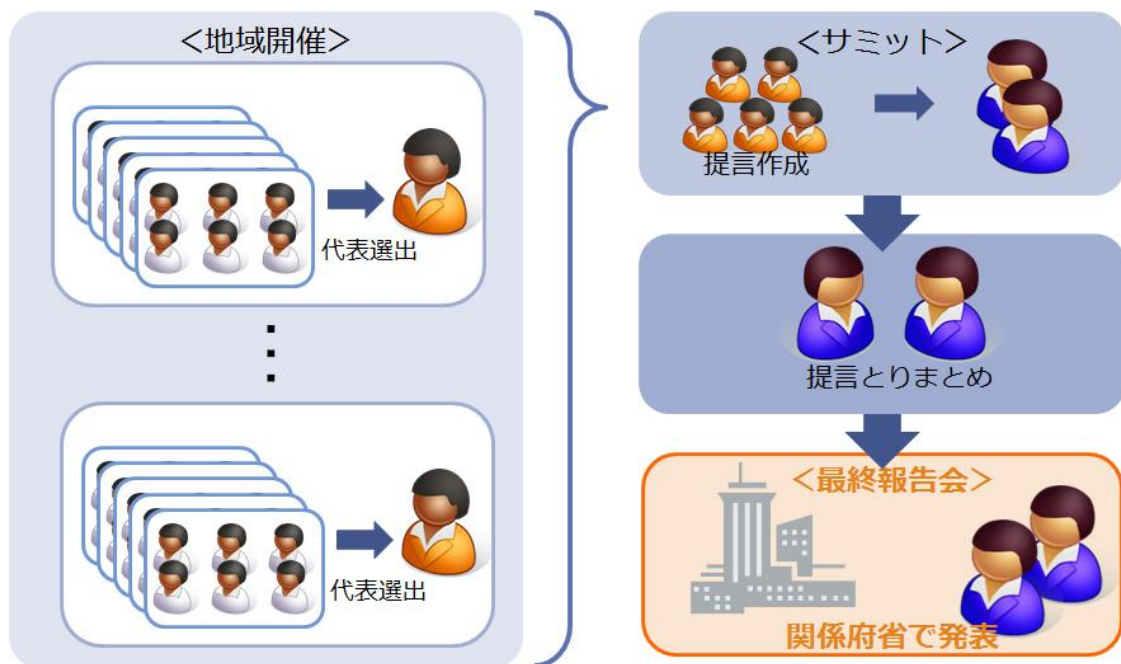
	飯塚 みく ラウンドファシリテーター 矢野 理央
--	------------------------------------

4. 主担当

一般社団法人安心ネットづくり促進協議会	事務局
一般財団法人草の根サイバーセキュリティ推進協議会 学校法人岩崎学園 情報セキュリティ大学院大学 総務省関東総合通信局	会場、什器備品手配、庶務

5. 高校生 ICT Conference 最終報告会

高校生 ICT Conference 2023 サミットで検討された提言を、選出された代表者が報告用にとりまとめ、関係府省庁にて報告を行うとともに、関係府省担当者との意見交換によりコミュニケーションを踏る。



6. 高校生 ICT Conference の成果物と終了後の対応

- 1) グループ発表資料保存（又は模造紙など発表紙面の撮影）
- 2) Conference 終了後、発表内容、講評と併せて高校生 ICT Conference のサイトにアップデート
- 3) 高校生 ICT Conference 2023 サミット終了後、実行委員会にて取りまとめ
- 4) 高校生 ICT Conference 2023 サミット代表者による最終報告会用資料の作成
- 5) 最終報告会での発表

以 上